

■ ききょうの里 広幡



広幡地区は、明治22年に成島、小山田、上小菅（沖仲、京塚、大沢）、下小菅の4つの村が合併して広幡村となりました。
成島八幡宮に広がる郷であることから「広幡」と名づけられたもので、昭和29年10月に米沢市に合併し、米沢市広幡町となって現在に至っています。
広幡の花は、桔梗です。桔梗をとおし、美しい広幡づくりと地区民の交流、地域を愛する気持ちを育むことを目指しています。

■ 成島八幡宮



成島八幡宮は、宝龜8年（777年）に將軍大友駿河麻呂が、蝦夷討伐に際し天皇に願ひ創建され、大同2年（807）征夷大將軍坂上田村麻呂が戦勝を祈って社殿を造営したとも伝えられています。
この地の鎮守として祀られ、米沢では最も古い由緒を伝える神社で、伊達氏、上杉氏の歴代領主によって改築・修理等が行われ、48枚の棟札が納められています。天正19年（1592）伊達政宗が岩手山に移された時、成島八幡宮を分霊して仙台市の大崎八幡神社を建立したといわれています。

■ 林高庵と大地蔵 百三十三観音



林高庵は、林泉寺の末寺で、明暦年間（1655～1657 上杉家では三代綱勝公）の創立といわれています。
境内の一角に大きな地蔵尊鎮座しています。もとは成島八幡宮別当寺の龍宝寺に鐘掛堂と一緒にありましたが、大正10年、この林高庵に移し納められたものです。
また、境内には、西国三十三観音をあわせて百三十三体の観音像が納められ、多くの人の信仰を集めています。

■ 一宮神社と繫絵馬図（つなぎえまず）



一宮神社は、和銅3年（710）に出羽の国司、安倍安磨が飽海郡の小物忌神社（庄内平田町）を分霊したものとされています。
大江時代を経て、歴代の領主から崇拝され、特に上杉の時代になってからは、寄進や修造が続けられてきました。
神社には数多くの奉納された絵馬があり、天正7年（1577）奉納の繫絵馬図は、米沢市指定文化財になっています。
また、上杉景勝公の直筆の書状も有し、歴史と由緒のある神社です。

■ 上小菅観音と大けやき



文保元年（1318）、長井庄（置賜）の地頭、長井秀宗の建立で、本尊は千手観世菩薩（鎌倉時代の作といわれています。）です。
置賜三十三観音霊場の一箇所、ここから巡礼が始まります。
月見の名所で、上杉鷹山の藩政改革を推進した竹俣当綱、荻戸善政等が月見の宴を開き、飢饉の際多くの人の命を助けることになった備後蔵は、ここで議論された改革案の一つでした。
観音堂参道には、推定樹齢450年位といわれる米沢市指定史跡勝勝天然記念物に指定の大樟があります。

■ 一郎山スキー場ジャンプ台



広幡小学校の裏山に一郎山スキー場があり、スキー場には20M級のジャンプ台が設置されています。
このジャンプ台では、毎年、小学生を対象とした「スパーイーグルジャンプ大会」が開催され、たくさんのジャンプ選手を輩出しています。
冬になると市内の小学校からジャンプの練習にたくさんの選手が訪れ、大きな歓声に包まれます。

ききょうの里 広幡をたずねて



輝くひろはた創造事業

広幡コミュニティセンター

